

# 時間別図解!

## よくわかる「第8回天保山まつり2015!」

2015年11月1日(日)開催

ベイエリア市民協働の花

**1 10:20** 高灯籠除幕式

**2 11:03** 港区長挨拶

**3 11:05** オープニングセレモニー

**4 11:15** 大ヒガキくん海遊館横出発!

**5 11:26** 海岸通りをいく小ヒガキくんの勇姿!

**6 11:27** 大観覧車を曲がる築港中演奏隊!

**7 11:35** 花の海遊ロード疾走!

**8 11:38** 港商店街をいく!

**9 12:05** 赤レンガ倉庫横広場に到着し、帆を上げるヒガキくん!

**10 12:25** 餅まき

**11 12:35** USJスタッフモブ

**12 13:47** 港商店街で、築港中のダイナミックな演奏!

**13 15:43** 大トリ! 大正区長のステージ

**START!** 海遊館横サンセット広場

**GOAL!** 赤レンガ倉庫横広場

# 港

## まちづくりタイムズ

### 創刊号

発行者: 港区産官学連携会議「港区CRテーブル(港区役所、(一社)港まちづくり協議会大阪、大阪市立大学創造都市研究科小長谷研究室)」  
 発行日: 2015年11月30日 編集事務局: (一社)港まちづくり協議会大阪(大阪市港区築港3-7-15 港振興ビル 206A 06-6572-0017)

### 港区のまちづくり

(築港・天保山エリア)

港区・天保山。江戸時代は天下の台所・大坂の玄関口として菱垣廻船が行き交い、大正から昭和初期にかけては日本屈指の近代港として大型蒸気船で賑わい、そして今、大阪都市魅力創造戦略の重点エリアとしてクルーズ船を核とした集客観光拠点をめざします。日本一低い天保山、築港高野山、天満屋ビル、赤レンガ倉庫・その一つ一つが波瀾の歴史を今に伝えます。

港区役所は、大阪港駅から海遊館への「花の海遊ロード」では、地域と協働して花飾りやイルミネーションなどのおもてなしの取り組みを、「天保山まつり」では、連携・協働の輪を年々広げ「まちがまるごとテーマパーク」と、秋の1日にエリア魅力をアピールしてきました。今後は観光戦略と連携した、訪れる人にも、住む人にも魅力を感じるまちづくりが極めて重要となります。

地域では、将来像を共有しながら魅力の向上を考える「築港・天保山魅力創造検討会」を既に立ち上げ、ホームページの開設など情報発信の強化や、ガイドブックの作成など回遊性の向上に取り組んでいます。今後は、豊富な地域資源を更にテーマ性、ストーリー性を持ってアピールし、エリアイメージのブランド化をめざします。

このタイミングに大阪市立大学と港まちづくり協議会大阪、港区役所がエリアの活性化に向けて連携させていただくことになりました。それぞれ「強み」が相乗的に発揮され、エリア魅力を強く発信するプロジェクトになるものと大いに期待しています。

### 港まちエンジン会議

(築港・天保山魅力創造検討会)の取り組み

港区では、二〇一四(平成二六)年から、地域団体、企業、学識経験者のみなさんとともに、市民参加の会議「港まちエンジン会議」を開催し、エリア資源の発掘やさらなる魅力づくりに取り組んでいます。

二〇一四(平成二六)年度は、(一)築港・天保山エリアのシンボルとなる「ロゴマーク」の作成、(二)来訪者に便利な「ガイドブックづくり」、(三)案内表示の「サイン計画」に取り組みました。

二〇一四(平成二六)年九月二六日の第一回会議では、これからの「港町のアイデンティティ(自分らしさのこと)」、つまり港町としてのイメージ、港町らしさ、港町らしいもの・ひと・ことを市民のみなさんに考えていただき、「夕日の風景」「異国情緒」「船」「橋」「倉庫」「潮風の香り」「汽笛の音」「船員酒場」「歴史的建築」「六角形の島」「港のへそ」などのアイデアが出ました。

会議のアドバイザーである大阪市大の小長谷先生からは、「昔は港で栄えたが、物流の変化で海・船へのふれあいから遠ざかった。その素晴らしいイメージを復活させよう」とアドバイスをいただきました。

二〇一四(平成二六)年十一月三日の第二回会議では、ロゴやマークをつくるためのイメージをみんなでいっしょに考えました。4つのグループで「海・山・島の門前町」「船が集まるまち」「大阪港の小さな宝島」「五感でまるごと体験 築港天保山」「海と山のまち築港天保山」歩いて登れる日本一低い山 天保山」など。会議のアドバイザー

### 大阪港の小さな宝島

Chikko, Tempozan

「海・波・夕日などの港区の自然」などの5例が代表的ですが、「築港・天保山の六角形の地形」の中にキャッチフレーズ「大阪港の小さな宝島」をいれた写真のものが市民のみなさんの意見で最多となり、ロゴマークとして使用していくことになりました。

また公開のロゴですので、このエリアの魅力向上に資する用途であれば届け出の上、使用いただけます。グループワークでは、このようなロゴマークを地域の魅力発信にどのように活用していくか、議論しました。ロゴマークの活用戦略として「名刺やチケットに使う」「まちなかの隠れロゴとして散りばめる」「案内板(サイン)に展開する」などが提案されました。

二〇一五(平成二七)年三月一六日には、取り組みのキックオフにあたる「築港・天保山エリア魅力アップフォーラム」を開催、桂福丸さんによる落語「天保山物語」、地域づくり専門家による講演、エンジン会議メンバーと会場とセッションなど、満員の盛況でした。

この会議は、二〇一五(平成二七)年度も、まちの魅力づくりについて検討をさらに進めてまいります。

<https://www.city.osakajp/nihato/category/2710000-0.html>

### 天保山まつりの歴史

(一)二〇〇八(平成二〇)年の、ベイエリア五区で、定期航路のない船を船会社が出し、その船着場で各区がイベントをした「ベイアンドリバーサイドパーティー」がきっかけです。(二)それをうけついで、まちの魅力を発信する市民協働ネットワークづくりのための「築港・天保山にぎわいまちづくり実行委員会」が設立されました。(三)その後、まつりの名称に、発信力のある「天保山」という名をつけ、もともと「町民の力で土砂堆積をおこなってきた土地」であり、市民協働の地なので、市民主体へと移っていきます。(四)二〇一三(平成二五)年に、今のまつりの核となった「菱垣廻船プロジェクト」がスタートします。「なにわの海の時空館」の菱垣廻船の三分の一モデル、(〇分の一モデルがあり、マニアの人たちから、中央突堤の倉庫に眠っていることを教えられました。この大阪ベイエリアのシンボルともいえるべき宝を、なんとかして救出したい、そこで市民のみなさんが、ボランティアで出しました。(五)良く見てみると、一般の御興よりはるかに立派です。地元のみならず「こんな立派なものを無くしたらあかん! わしらがひっぱってみせる」と言い、まつりの中心となりました。関西のまつりには、だんじり、山鉾ひきまわしの伝統があり、ある意味もっとカッコイイ海と港のシンボルとして最高です。(六)そこで、復元し、港住吉神社で御霊を入れ、神事をし、赤レンガ倉庫前で帆を上げました。これが「第六回天保山まつり二〇一三」の中核になり大成功します。このように菱垣廻船は、公民協働の好例であり、また新しいものではあっても、地元の伝統・地域文化そのものであり、ふさわしいものとなりました。(七)参加者は、乗降客からの推計で、第六回五千人、第七回一万二千人、第八回一万六千人と、この三年間で三倍以上に増加しています。

みんなで盛り上げよう 2017年は大阪港開港150周年

編集後記: 噂では「築港ロゴ」は、大阪のシンボルお好み焼きのコテにもみえるようにも設計されているとか? ★天保山まつりの元の写真や他の写真は(一社)ホームページ <http://minatomachi-ojp/> の情報記録欄をご覧ください。

港まちづくりタイムズ創刊号 発行者: 港区産官学連携会議「港区CRテーブル(港区役所、(一社)港まちづくり協議会大阪(代表理事: 重山英樹)、大阪市立大学創造都市研究科小長谷研究室)」、発行日: 2015年11月30日、編集事務局: (一社)港まちづくり協議会大阪。本媒体は文部科学省のCOCプロジェクト事業「大阪の再生・復活と安全・安心の創生をめざす地域志向教育の実践」の予算を使用しています。

# 「築港色彩学」築港に似合う色とは？龍馬と天保山？

## 鮮やかな色彩をまとう築港(中村真由)

築港は360度海に囲まれた独特の雰囲気を持つ地域です。築港といえば、北部にある海遊館が最も有名な観光地でしょう。紺碧の建物が放つ存在感は大きく、現状、大阪港を訪れる観光客のほとんどは北部に集中しています。しかし、築港の見所はここだけではありません。海遊館や天保山公園から見える海は大阪港の北側の青い風景の象徴です。それに対し、南側には赤、西側ではオレンジの風景が見られることが特徴的です。

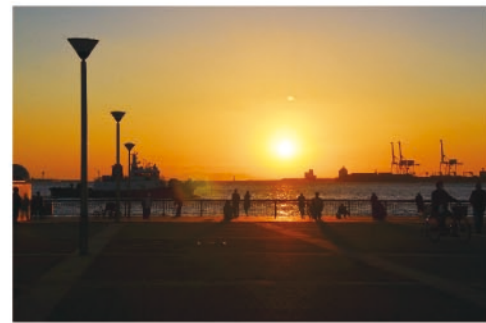
## A. 赤レンガ倉庫(中村真由)

90年もの歴史がある赤レンガ倉庫は、クラシックな雰囲気漂う大人空間です。ここでは、重厚な空気感に包まれながらクラシックカーを見学できます。また、見学を終えた後に倉庫内のカフェやレストランでゆったりとした時間を過ごすことも可能です。日常を忘れさせてくれるその空間は、普段忙しい生活を送るあなたに幸せな時間を与えてくれるでしょう。■ジーライオンミュージアム ■営業時間 10:00～19:00、定休日 水曜日



## B. オレンジのダイヤ、西にあり!? (大西由佳利)

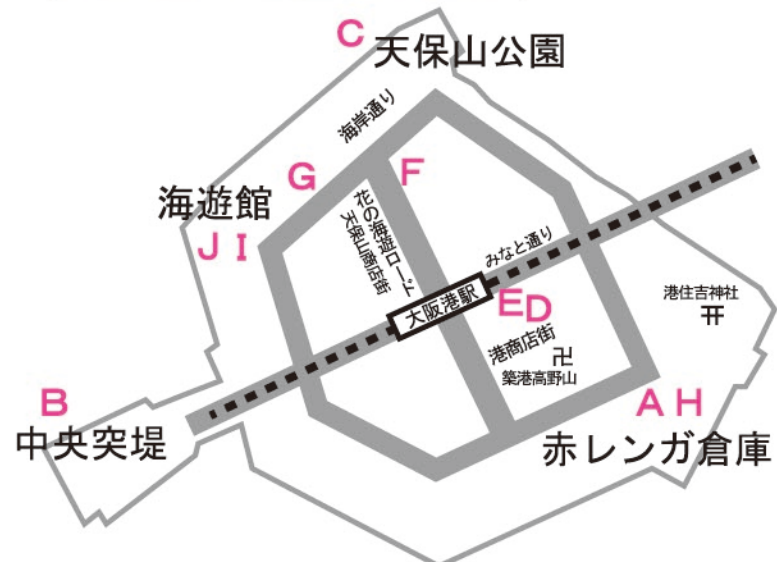
2015年の天保山祭りのポスターは、青・白・オレンジを基調に作られていたのをご存知でしょうか。青は海、白は船。ではオレンジは…? そう、夕日! 西に開けた大阪港に面している築港は夕日がとても美しい場所です! その絶景が眺められるのが築港の西エリアです。写真は大阪港駅から西に歩いていくと着く中央突堤という場所で「ダイヤモンドポイント」とも呼ばれています。由来は写真から一目瞭然ですね。まさにダイヤモンドのように輝く夕日が海に沈んでいく様子をしっかりと目に焼き付けられるスポットです。初めて来た人は、一帯がオレンジ色に染まった幻想的な風景に心を奪われるのではないのでしょうか。夕日のベストショットを撮ったり、大切な人と過ごしたり、またとても落ち着いた場所なので一人でんびりと眺めるのもいいでしょう。最後にもう一つ。写真右側に見えるクレーンがキリンのように見えませんか?ぜひ見てみてください。



写真協力: 亀田誠

## C. 龍馬夫妻の愛の旅路を見つめた天保山、そのいにしえの高灯籠が現代によみがえる(上田淳)

2015年11月、天保山公園内に新しく高灯籠型観光案内板が設置されました。このような形は全国的にも珍しいですが、「なんで高灯籠型なん?」と思う人も多いでしょう。実は、天保山ができた際に周りを航行する船舶の目印として建てられた高灯籠が案内板のモチーフです。その姿は『東海道五十三次』で有名な歌川広重の『大阪天保山』においてもでかでかと描かれています。案内板には天保山の案内の他、幕末の英雄である坂本龍馬と天保山の縁についても記されています。これは「寺田屋事件」後、彼が妻のお龍と共に船で鹿児島へ旅立った「日本最初の新婚旅行」と呼ばれる旅路の始まりが大阪港だったからです。残念ながら、その頃高灯籠があったかどうかは確認できませんでしたが、もし残っていたのであれば「これはまっこと大きい灯籠ぜよ」と言っていたかも…。新しすぎて、公園案内案内板にもまだ載っていない高灯籠型案内板、ぜひ探してみてください。



# 築港・天保山、こだわりの店紹介!

## D. 築港・天保山のお店紹介① 和菓子屋「静月」(永長千晴)

のんびりとした雰囲気と和む 大阪港駅のすぐ南、港商店街の一角にある昔ながらの和菓子屋だ。営業時間は9:00～19:00。周辺に会社が多いので、手土産として購入される方も多いという。天保山まつりのもち撒きにも静月のもちが使われている。昭和40年創業、夫婦2人で切り盛りされている。元々はお主人のお父様が朝潮橋に本店を構えておられた。30年ほど前にお主人が築港に支店を出すこととなり、2店舗体制となった。しかし、お父様が引退され、現在は築港でのみ営業されている。商品は桜もち、かしわもち、おはぎ、チョコレート大福、など幅広く、実に30種類を超える。一番人気のみたらしは、醤油の香ばしい香りに、もちの柔らかさがやみつきになる。この美味しさでたったの60円とは驚きだ。和菓子の繊細な味と、店先のあたたかな雰囲気は、また訪れたいと感じさせるものがある。あなたも一度足を運んでみてはどうだろうか。



# 迫力の天保山まつり2015! みどころ報告! おまつりで、築港・天保山の良さを再発見!

## G. はたらく船の花舞台 - 船が夢の競演を果たし、街を練り歩く(亀田誠)

大阪の海の玄関口の魅力を伝える天保山まつりが、11月1日(日)に行われた。海遊館横のサンセット広場では、水上警察・水上消防・海上保安庁・大阪税関の船内を無料で見学できた。動く船が1つの港に集結するという滅多にない機会に、興奮した人も多いのではないだろうか。和太鼓の華々しい演奏の後、オープニングセレモニー。天保山まつりの応援として、初代公式サポーター隊長の「トミーズ健」が駆け付けた。さらに「女と男」「ガリガリクソン」も登場し、会場をおおいに盛り上げた。オープニングセレモニーに続き、まちなかパレードが開始。江戸時代に大阪港を波風の力で行き交った菱垣廻船をおよそ3分の1と10分の1の大きさで再現した「浪速丸ヒガキくん」。今度は人の力で大阪の港町の街中を豪快に行き交った。船の力でまちは活気に溢れていた。



## H. 天保山まつりー五感で楽しむ赤レンガ倉庫(前田嘉哉)

赤レンガ倉庫横の会場では模擬店が多数出店。「みなトクモン」という港グルメ(アナゴ天など)を味わうコーナーの他、「世界のお茶カフェ」などが開かれ、大変賑わった。ヒガキくんからの餅まきには、初代公式サポーターのトミーズ健さんや港区長らが登場。お餅が無料でもらえることにも大変な盛り上がりだった。また、お餅を取れなかった参加者のためにサプライズで二回目の餅まきも行った。USJのパフォーマーによるフラッシュモブには観客たちも驚いていた。だが、周りの参加者も彼らにつられて次第にその中に入っていき、楽しんでる様子だった。赤レンガ倉庫敷地内では、府立市岡高校吹奏楽部による演奏が行われた。大阪府吹奏楽コンクールで13年連続金賞を受賞している団体である。彼らの演奏には心揺さぶられた。今後もこうした公演を続けていくことでまた来年も来ようという参加者が増えていくのではないだろうか。



## I. 仰天! 安床ブラザーズ(堀口泰聖)

インラインスケート界で世界的な知名度を誇る安床ブラザーズ。そんな彼らとその門下生たちを間近で見られるショーがサンセット広場にて行われた。高いエアや難度の高いトリックを次々に繰り返して、迫力のある技で観客を魅了。4名の門下生の上を越えて跳ぶ危険と隣り合わせの大技を決めるなど、見所たっぷりのショーであった。



## J. 感動! エンディング(堀口泰聖)

天保山まつりの締めくくりは、大正区長の筋原章博氏によるワンマンライブショー。もともと同じ区であった大正区と港区。そこで共に港区を盛り上げようとして筋原氏も出演。「大正リバーサイド物語」をはじめとした計2曲を披露し「歌う区長」の通り名に合うショーとなった。演歌のさびとなる哀愁漂うメロディは、地域の良さを紹介する歌詞と共に心地よいハーモニーを奏でながら聴衆を恍惚とさせた。普段の港町より一層活気に満ちた天保山まつり。そこでは老若男女の談笑が行き交った。

# 築港・天保山、こだわりの店紹介!

## E. 築港・天保山のお店紹介② 「coffee shop Papas」(尾上葉月)

心と体の癒しの空間 1988年にマスターが創業したこの喫茶店。サイフォン式で淹れるコーヒーは味も香りもひと味違う。7:00～11:00までがモーニングメニュー、11:30からはランチメニュー。種類の多いモーニングメニューのなかでも人気はヤキサンドセット。やさしい味のヤキサンドにサラダとコーヒーがついた朝食にぴったりのセット。ランチメニューではオムライスが人気。そんな好評のオムライスや他いくつものメニューは春まで全曜日の17:00～22:00にお得なお値段で食べられるのでおすすめ。店内はレトロな家具がたくさん置いてあり、落ち着いた空間でゆったりとした時間が流れている。1人でモーニングを食べにこられる方やランチを食べにこられる会社員、ほっと一息つきにくる親子連れなど、客層は様々である。そんなお客様ひとりひとりを大切にしていることが店内の張り紙などから感じ取れ、またお客様からも愛されているお店である。



## F. 築港・天保山のお店紹介③ 「雪花の郷(しゅえーほあのみと)」(永長千晴)

ふわふわ雪スイーツ 雪花氷(しゅえーほあのみと)は、ミルクの雪を食べているような新感覚スイーツだ。TVにも取り上げられ商標登録もされている。ご主人がお仕事で台湾へ行かれた時に雪花氷に出会い、衝撃を受けたのが始まりだ。台湾では流行が下火となってきて、何とか残したいと感じた結果、台湾の本社に交渉し、18年ほど前に築港にお店をオープン。流行に左右されず長く愛される商品に育てることを今も第一に考えておられる。雪のような触感、厳しい温度管理と氷を削る技術によって実現されている。また、トッピングのハワイの塩、台湾の工場で作っているパウダーなど、雪花氷を引き立てるための様々な工夫もなされている。貴婦人の香り、金銀財宝などユニークな名前がついているのも楽しめるポイントだ。他にもフラワーティーやおかゆなどもあり、食事をとることもできる。本店の定休日は月曜日。

